

令和3年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
林産部門

日本の伝統文化の継承のため夫婦二人三脚で取り組む複合的林業経営

○氏名又は名称 杉本 英夫・杉本 淑美

○所在地 福井県福井市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

福井市は、福井県の北部に位置し、冬季は冷温多湿で山沿いの地域では豪雪地帯となるが、夏は晴天が多く気温は高い。地域に根ざした多様な里山利用が継承されており、様々な特用林産物が小規模・分散的に生産されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

英夫氏は、高校卒業後福井県内で製造業に従事していたが、昭和60年に淑美氏と結婚し、平成5年には淑美氏の実家の家業である農林業を継承した。広大な所有山林を有効活用し、スギ林の管理をはじめ、製炭業、養蚕、しいたけ生産、野菜や水稲栽培など様々な産物を夫婦二人三脚で効率良く生産している。淑美氏の父から指導を受けた製炭業は、平成28年には生産量が県内1位となるまでに発展した。

・受賞者の特色

(1) 複合的林業経営による収入の安定化

所有林や地域の広葉樹林から原木調達し、植樹することで安定的な生産を行っている木炭生産については、昨年度は新型コロナウイルスの影響により出荷量が大きく減少した。しかし、様々な産物を組み合わせて生産していたことから、他産物の販売収入によって経営を維持することができ、複合経営の強みを発揮した。

(2) 伝統文化への貢献、地域の需要に即した高品質の農林産物生産

茶の湯に必要な美しい菊炭や、刀鍛冶に不可欠な松炭を生産している。また、北陸唯一の養蚕農家として、日本の在来種「小石丸」を原種とする「玉小石」を飼育し、繭を県内の機織り職人に納入するなど、地域需要に応じた生産品目の拡大に取り組んでいる。さらに、淑美氏の発案により、養蚕の余剰桑葉の新芽を茶葉に加工するなど、新たな製品開発にも努めている。

・普及性と今後の発展方向

炭の生産者と消費者で組織する「福井炭やきの会」において、令和元年までの6年間は会長として、現在は相談役として、生産者の技術向上と消費者へのPRに尽力している。また、行政や法人、林業大学校が開催する研修に講師として指導にあたるなど、製炭技術の継承に取り組んでいる。一方、広葉樹林の資源調査へのドローン導入やバイオ炭の開発事業にも貢献しており、今後も伝統を守りながら、新しい取組に意欲的に着手するなど、都市部から山間部へ回帰した複合的林業経営の先駆的な成功者としての更なる活躍が期待される。

令和3年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

若者と協働した地域活性化とコミュニティ再生

○集団等の名称 伊自良の里・食と農推進協議会（代表 多野 太右エ門）

○所在地 福井県福井市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

福井市は、福井県の北部に位置する。福井市の東部に位置する上味見地区（旧美山町）は、過疎・高齢化が進む地域ではあるが、古くから交通の要所として栄え、白山水系の鉱泉が旅人などを癒してきた。旧美山町は、ふるさと創生まちづくりとして平成8年3月に町営の伊自良温泉を開湯した。

・むらづくり組織の概要

伊自良の里・食と農推進協議会は、平成19年に伊自良温泉の指定管理を地域住民が受けるため設立された「伊自良の里振興協会」が核となり、廃校となった上味見小学校を自然体験活動拠点として運営するNPO法人などの連携団体が構成員となり平成28年3月に発足した。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 地域農業を支えるべく地区外の若者を中心に構成されている上味見青年団は、焼き畑農法による伝統野菜「河内赤かぶら」や休耕田での本わさびの栽培等に、農業ボランティアを受け入れ、農業の応援活動を企画運営し耕作地を維持している。
- ② 旧美山町時代から取り組まれている地酒づくりをきっかけに酒米生産が始まり、現在は会員法人の（農）上味見みらいファームと福井市内の酒造会社が連携し、清酒づくりに取り組んでいる。原料となる15.7tの酒米は、美山錦、山田錦、五百万石を生産する会員の農家が契約栽培している。

（2）生活・環境整備面

- ① 地域住民の交流拠点となっている伊自良温泉を核として、「自然」「文化」「食」を活かした地域づくりを目指し、「伊自良・いやしの里づくり構想」を掲げ、交流人口を増やしている。
- ② 福井工業大学等と連携し、水資源を活用したピコ水力発電による街灯点灯や森林資源を活用した薪ボイラーによる温泉加温など自然再生エネルギーの活用を進めており、持続可能な地域社会への取組も始めている。
山村らしい暮らしづくりのPRに、薪オープンでのピザ作りを子ども達の活動やイベントに取り入れている。
- ③ 空き家の無償賃借や譲渡を受け、宿泊施設等での利用を進めて交流活動に活用している。また、農家民宿の開業も支援し、空き家と併せて教育旅行の受入れの交流活動にも取り組んでいる。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、地域の課題に対し、都市との交流を図り、外部人材と連携し、さらには移住者として受け入れることにより、課題の解決に成功している事例であり、今後とも取組の継続が期待できる。

条件不利な山間地域にあって、地域資源を活用し新たな人材を受け入れることで、地区の活力を高めていく本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。